

●演習ワークシート

事例 1

症例：70 歳，男性，体重 52kg（通常 55kg）

嘔気が持続し 1 週間食事がとれず，水分を少量のみで様子を見ていたが，全身倦怠感が強くなってきた。本日家族と救急外来を受診し，小脳梗塞と診断され，入院となった。

来院時身体所見

意識	体温	心拍数	血圧	呼吸数	SpO ₂
JCS 0	36.2℃	80 回/分	120/80mmHg	14 回/分	96%

口腔・腋窩・皮膚乾燥，ツルゴール低下なし

〈血液検査〉

WBC	Hb	Alb	Na	K
6000/μL	15.0g/dL	3.0g/dL	135 mEq/L	4.1mEq/L

Cl	BUN	Cr	Glu
95 mEq/L	18 mg/dL	1.2 mg/dL	100 mg/dL

〈胸部 X 線〉 うっ血なし CTR 45%

〈頭部 CT〉 右小脳半球に低吸収域あり

演習課題 1

この患者は，脱水症状に対する輸液による補正の対象者でしょうか？ 手順書をもとに判断し，根拠を述べてください。

演習課題 2

この患者は，特定行為（脱水症状に対する輸液による補正）実施の病状範囲内でしょうか？ 手順書をもとに判断し，根拠を述べてください。

演習課題 3

この患者の脱水症状に対する輸液の補正方法を教えてください。特に、以下の3点に明確に解答をしてください。

- どんな輸液製剤を
- どれだけの量
- どれだけの時間をかけて行いますか？

演習課題 4

この患者の脱水症状に対する輸液の補正を開始しました。

- 輸液中にどのようなことに注意しますか？
- 輸液後どのようなことに注意しますか？

●演習ワークシート

事例 2

症例：70 歳，男性，体重 52kg（通常 55kg）

嘔気が持続し 1 週間食事がとれず，水分を少量のみで様子を見ていたが，全身倦怠感が強くなってきた。2 日前に家族と救急外来を受診し，小脳梗塞と診断されて同日入院となった。

来院時身体所見

意識	体温	呼吸数	SpO ₂
JCS I -0	36.5℃	15 回/分	97%

口腔・腋窩・皮膚乾燥，ツルゴール低下なし

〈血液検査〉

WBC	Hb	Na	K
6000/μL	9.0g/dL	135 mEq/L	4.1mEq/L

Cl	BUN	Cr	Glu
95 mEq/L	41 mg/dL	1.2 mg/dL	100 mg/dL

入院 3 日目の身体所見

意識	体温	心拍数	血圧	呼吸数	SpO ₂
JCS II -10	36.2℃	100 回/分	110/70mmHg	24 回/分	95%

体重 53kg（通常 55kg）

口腔・腋窩・皮膚乾燥，ツルゴール低下なし

演習課題 5

この患者は，脱水症状に対する輸液による補正の対象者でしょうか？ 手順書をもとに判断し，根拠を述べてください。

演習課題 6

この患者は，特定行為（脱水症状に対する輸液による補正）実施の病状範囲内でしょうか？ 手順書をもとに判断し，根拠を述べてください。

●演習ワークシート

事例 3

症例：45 歳，男性，体重 60kg（通常 62kg）

5 日前，友人と焼肉を食べに行った．3 日前から嘔吐下痢あり．ぐったりしているところを友人が心配して連れてきた．医師の診察後，輸液の処置をまかされた．水分摂取はしていた．

来院時身体所見

意識	体温	心拍数	血圧	呼吸数	SpO ₂
JCS I -1	38.2℃	100 回/分	130/90mmHg	22 回/分	99%

口腔・腋窩・皮膚乾燥，ツルゴール低下

〈血液検査〉

WBC	Hb	Na	K
13200/μL	16.2g/dL	125 mEq/L	3.0mEq/L

Cl	BUN	Cr	Glu
90 mEq/L	30 mg/dL	1.3 mg/dL	130 mg/dL

〈胸部 X 線〉 うっ血なし CTR 40%

演習課題 7

この患者の脱水症状に対する輸液の補正方法を教えてください．特に，以下の 3 点に明確に解答をしてください．

- どんな輸液製剤を
- どれだけの量
- どれだけの時間をかけて行いますか？

手順書

脱水症状に対する輸液による補正

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. 長期間にわたり経口摂取や飲水ができていない場合
2. 嘔吐や下痢が持続し、体重が減少している場合
3. 発熱や発汗が持続し、体重が減少している場合
4. 多尿が持続し、体重が減少している場合

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 意識状態の変化なし
- ☐ 血圧、脈拍、呼吸状態が安定している場合
- ☐ 医師による初回の病状判断（診断）がされている場合
- ☐ （血液検査で著明な血清電解質（Na, K, Cl）異常、腎機能（BUN, Cr）異常や低蛋白血症がないことが確認されていることが望ましい）

病状の範囲内

安定
緊急性なし

病状の範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師に直接連絡し、指示をもらう

【診療の補助の内容】

脱水症状に対する輸液による補正

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ 意識レベルの変化
- ☐ バイタルサインの変化
- ☐ 心不全徴候（ $SpO_2 \leq 93\%$ ）

どれか一項目でもあれば、下記の確認をして担当医に連絡

- ☐ バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数、経皮的酸素飽和度）
- ☐ 肺音聴診でう音（crackle, wheezing）の聴取
- ☐ 浮腫（顔面、下腿など）の悪化

担当医師に直接連絡し、指示をもらう

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師

【特定行為を行ったあとの医師又は歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療録への記載

厚生労働省（2018）．特定行為に係る手順書例集．より

手順書

脱水症状に対する輸液による補正（在宅・介護保険施設等）

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

在宅で訪問看護を受けている患者または施設入所者で、
・自他覚症状や飲水量や排尿回数等から脱水が疑われる場合
または、
・脱水による補液を繰り返しており、今後脱水を起こす可能性が高いと考えられる患者

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 意識状態の変化なし
- ☐ 軽度の頻脈（脈拍数が収縮期血圧値を超えない程度の頻脈）以外にバイタルサインに異常がない
- ☐ SpO₂ ≥ 92%
- ☐ 基礎疾患に重症の心不全や腎不全、および重度の慢性腎臓病が認められない
- ☐ 血液検査を実施した場合は、腎機能や電解質に、病状が落ち着いているときと大きな変化がない

病歴や身体診察から、脱水の原因が感染症など急性疾患によるものと考えられる場合は、担当医師に直接連絡

病状の範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師に直接連絡し、指示をもらう

病状の範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

脱水症状に対する輸液による補正（在宅・施設）

輸液製剤の種類はカリウムを含まないものを用いることが望ましい

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ 補液による過剰と思われる自他覚所見（呼吸苦、喘鳴、浮腫など）が出現していない
- ☐ 意識、バイタルサインに問題がない

いずれかに問題がある場合は、担当医師に直接連絡し、指示をもらう

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師

【特定行為を行ったあとの医師又は歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療録への記載

●演習ワークシート

実習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1 を確認し、解答を記載してください。

演習課題 1

演習課題 2

演習課題 3

演習課題 4

● **演習ワークシート**

事例 2 を確認し，解答を記載してください。

演習課題 5

演習課題 6

事例 3 を確認し，解答を記載してください。

演習課題 7
